

1. 厚生年金基金の現状と問題点 ～AIJ 投資顧問による「年金消失問題」について～

AIJ投資顧問による「年金消失問題」で、厚生年金基金の問題が世間に一気にクローズアップされました。厚生年金基金(以下、「基金」とは、厚生年金の老齢給付の一部を国に代わって支給する年金制度で、昭和41年に導入された企業年金の1つです。中小企業が同業種ごとに基金に加入し、出し合った掛け金を基金が運用して、厚生年金の上乗せの年金を受給しようという仕組みです。厚生労働省は基金に調査を行った結果、全578基金のうち314基金において、年間の給付額が掛金(保険料)を上回ったということです(2011年3月期)。また、将来必要とする積立金が10年未満になくなってしまふおそれのある基金が16もあり、今後、積立不足による企業の倒産なども出かねない状況です。このように積立不足となった背景には、団塊世代の大量退職による年金受給者の増加がありますが、さらに現役社員が年々減少傾向にもありますので、支給総額から掛金総額を引いた差額は約1,300億円(2010年度)にも上っており、今後はさらに拡大することが考えられます。また、運用利回りも、将来の年金給付原資を確保するために、大企業においては一般的に「2～3%程度」必要であるとしているようですが、中小企業が中心の基金では、約9割が「5.5%」といった高水準になっているようです。利回り出来ずに、損失部分を穴埋めするにしても、こうした基金の中には、業績低迷により掛金を増やせない状態にあるケースが多くなっています。では、これらの基金は運用難をどうやって乗り切れればよいのでしょうか?約4割の基金では、積立金について企業年金分がまったくないうえに、公的年金分(代行部分)も不足しているそうです。財政悪化に対処するために退職者が受給している企業年金の減額を行うことも考えられますが、手続き上、受給者の「3分の2以上の同意」が必要ですので現在は難しいとされているため、厚生労働省では企業年金の減額を認める要件を「過半数の同意」に下げる案を検討しており、現役世代への過度の負担を防止することも考えているようです。

2. 有給休暇の計画的付与 ～上手な有給休暇の利用法～

労働者が退職時にまとめて有給を請求してきた。よく聞く話です。そうならないためにも普段から有給の取得はさせるべきなのですが、なかなか取得が進まない、と、これもよく聞く話です。有給は労働者の権利ですので、取得するかしないかは基本的に労働者が決めるものなのですが、取得しようとしないう労働者はもとより、労働者全員に取得させてしまう方法があります。計画的付与と呼ばれるものです。

計画的付与とは、労働者が持っている有給の日数のうち5日を超える日数について、労使間で協定することによりあらかじめ取得する日を決めてしまうという制度です。5日分については、労働者が病気その他の個人的事由による取得ができるように残しておかなくてはなりませんので、例えば、年次有給休暇の日数が10日の労働者に対しては5日、20日の労働者に対しては15日までを計画的付与の対象とすることになります。

計画的付与は、企業もしくは事業場全体の休業による一斉付与方法、班・グループ別の交替制付与方法、年次有給休暇付与計画表による個人別付与方法などがあり、導入に当たっては、このような方法のなかから実態に応じた方法を選択することになります。

実際の使用例としては、夏季や年末年始の休暇に付けることによって大型連休とする、飛び石連休の間に使う、閑散期に使う、労働者の記念日に使うなどがあり、有給の取得率向上だけでなく、使い方によっては福利厚生的な使い方もできます。ひょっとしたら、会社の「売り」になるかもしれません。詳しい内容についてお知りになりたい場合は、一度ご相談ください。

● 編集後記 ●

いつも以上に非常にプライベートな話で恐縮ですが、今年度ついにPTAの役員になってしまいました(学校生活で一度はやるため)。テレビドラマでも頻繁に取り上げられている独特な社会。今まで保育園や学童でも役員は経験していますが、働くお母さんの組織なので合理的で、違和感なくやっていました。それとはやはり一線を画す領域。事前の根回しが足りないとお叱りを受けたり、関係各所への確認で余計に時間と労力を要す未知の世界。これも一つの経験だと思って、果敢に挑んでおります。「七人の敵がいる!」のかなあ?!(秋山)



あおぞら人事・労務サポート
 特定社会保険労務士
 秋山幸子(登録NO.13050514)
 三鷹市下連雀3-33-7-701
 TEL:0422-24-8625
 FAX:0422-24-8605
 E-mail: info@aozora-sr.com
 URL: www.aozora-sr.com

責任編集:社会保険労務士
 秋山・隅谷・玉川・安部(武蔵野支部)